

金沢大学附属病院歯科臨床研修プログラム（医科研修複合型）

I. 金沢大学附属病院歯科臨床研修（医科研修複合型）プログラム策定にあたって

近年の歯科医学の進歩や医薬品・歯科材料等の革新等に伴って、歯科医療技術はますます高度化・専門化が進んでいる上に、高齢化に伴う疾病構造の変化や国民のニーズの多様化、患者の権利意識の向上に伴う患者と歯科医師とのコミュニケーションのあり方の変化などが進み、歯科医療を取り巻く環境は大きな変貌を遂げている。これからの歯科医療は、患者に必要な情報を十分提供し、患者が納得して医療を受けられるよう十分なコミュニケーションを図り、予後を踏まえた診療計画を立てることが望まれる。更に、口腔の疾病治癒・機能回復のみを目指すのではなく、口腔に関係した全身管理を含めた健康回復・増進を図るといった総合性が要求される。

歯科医療のなかでも口腔外科あるいは口腔内科を将来的に専門とする歯科医師には

以上の状況を踏まえ、平成18年度から歯科医師臨床研修が必修化されることとなり、研修歯科医は社会のニーズに沿った歯科医師をめざすよう求められている。金沢大学附属病院（以下、本院）では一般歯科治療技術の習得はもとより、医科各科との連携による全身管理・全人的な医療の基本の習得を目指している。研修歯科医は、このプログラムのなかで様々な歯科医療現場を経験することで、定められた研修理念を遵守し、日常の歯科診療に対応する基本的診療能力を身に付け、地域医療に貢献できる歯科医師としての人格を涵養できると考えている。

口腔顎顔面外科や口腔内科は医学と歯学の両方に基づいた医療が求められるが、これまではこれらの専門医を目指す若手の歯科医師・医師の自己研鑽に頼るところが大きく、組織的に医学と歯学を融合した教育を受ける機会は十分とは言えない状況であった。そこで本院においては、これらの専門医を目指す者により良い教育を提供する目的で、従来から本院で行ってきた1年間の歯科口腔外科単独型研修に加えて、2年目に7か月間の医科研修と5か月間のより高度な口腔顎顔面外科診療を行う医科研修複合型プログラムを策定した。

【研修理念】

歯科医師が、歯科医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付ける。

II. 令和8年度金沢大学附属病院歯科臨床研修（医科研修複合型）の特徴

研修プログラムの特色

口腔の医療においては、Life cycleの観点から、歯がつくられる時期から老齢期にいたるまでの長い流れのなかで、それぞれの時期に適切な処置を行い、生涯を通じて口腔の機能をよりよく保ち、口腔の健康管理を通して全身の健康管理に関与することが大切である。そのため、歯科医師としての基本的価値観として、社会的使命と公衆衛生への寄与、利他的な態度、人間性の尊重、自らを高める姿勢を身につけ、最高の医療を提供するとともに、人間性豊かな優れた医療人の育

成を目指す。1年目の歯科口腔外科単独研修に加えて2年目に医科研修を行うことにより、口腔医療の専門家としてより幅広く対応できる基礎力を身につけることができる。

臨床研修の目標

医学・医療における倫理性、歯科医療の質と安全の管理、医学知識と問題対応能力、診療技術と患者ケア、コミュニケーション能力、チーム医療の実践、社会における歯科医療の実践、科学的探求、生涯にわたって共に学ぶ姿勢を身につける。基本的な診療能力、歯科医療に関連する連携と制度を実践し、習得する。

1年目は当院の関連病院である協力型（Ⅱ）臨床研修施設において歯科口腔外科で研修することができる。2年目は当院の麻酔科・集中治療部（ICU）、救急科、循環器内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科で研修し、各診療科の基本的な医学知識と全身管理を習得する。なお、2年間の研修修了後は修了認定を行い、3年目は大学院へ進学できる。

Ⅲ. 歯科臨床研修の管理体制

金沢大学附属病院臨床研修病院群研修管理委員会歯科臨床研修専門部会において本プログラム全体を統括する。各委員会の規程は別に記載する。

金沢大学附属病院臨床研修病院群研修管理委員会

委員長 金沢大学附属病院長 吉崎 智一

歯科研修プログラム責任者

歯科口腔外科科長 歯科口腔外科 教授 川尻 秀一

金沢大学附属病院研修医・専門医総合教育センター

センター長 救急科 教授 岡島 正樹

Ⅳ. 本プログラムの定員

1. 本院歯科臨床研修プログラムの定員は、4名とする。
2. 募集は公募により行い、歯科医師臨床研修マッチング協議会の歯科医師臨床研修マッチングプログラムに参加する。

Ⅴ. 本プログラムの参加施設

国立病院機構金沢医療センター（協力型（Ⅱ）臨床研修施設）

研修内容

総合病院の歯科口腔外科の特色を生かし多くの症例を経験できる他、入院症例の研修が可能であり、全身管理の研修を行うことができる。

研修期間

28日間

研修実施責任者

能崎晋一

指導歯科医師

VI. 令和8年度金沢大学附属病院歯科臨床研修（医科研修複合型）プログラムの概要

A. 研修概要

1. 歯科医師として身につけるべき基本的価値観及び基本的診療能力を修得する。
2. 地域包括ケアシステムの構築など、医療の提供体制の変化を踏まえ、在宅歯科医療の提供やチーム医療・多職種連携等へ対応できる歯科医師を目指す。
3. 歯がつくられる時期から老齢期に至るまでの各ライフステージにおいて必要な歯科保健医療へ対応できる歯科医師を目指す。
4. 口腔外科専門医・口腔内科専門医を将来目指す人材に必要な医科診療科を研修し、生涯に渡って自己研鑽を続けることができる医療人を目指す。
5. 研修期間は、1年目は金沢大学附属病院（11か月）
国立病院機構金沢医療センター（協力型（Ⅱ）臨床研修施設）（28日間）
2年目は金沢大学附属病院（12か月）
歯科口腔外科（5か月）
麻酔科・集中治療部（ICU）（4か月）
救急科（1か月）
循環器内科（1か月）
耳鼻咽喉科・頭頸部外科（1か月）
6. 医科診療科の研修概要
 - 1) 麻酔科・集中治療部（ICU）

麻酔科では「全身管理の Basic から Advance まで」を経験し理解・習得することを基本方針とする。日々手術室において行われている全身麻酔下の手術を通して、循環・呼吸（気道）・体液などの管理、バイタルサインの評価と判断、ショックや急変時の危機対応ができる医療者を育成する。

集中治療部（ICU）では全身状態を観察し、臓器別に治療の優先度を考えることで、一つの臓器の治療だけに囚われることなく適切な治療法を選択する知識を身につけるとともに、集中治療に欠かせない治療法や技術を経験する。
 - 2) 救急科

初期救急患者への対応から、高次医療機関に特化された院外心停止や高度外傷患者に対する高度医療までに通り返応できる知識、技能を身につける場を提供し、将来口腔外科専門医として活躍できるように救急患者への対応を経験する。
 - 3) 循環器内科

各臓器分野と連携しながら内科医としての基本的な知識と技術を全般的に習得し、さらに豊富な症例を経験することで高い専門性を構築する教育を実践している。基本的かつ

高度な循環器検査・治療の補助・施行を行うことができる。また、一般病院で診療する機会が少ない重症冠動脈疾患や末期心不全、重症不整脈などを経験する。

4) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

感覚器・頭頸部外科から始まる全人医療を基本方針とし、小児から高齢者まで幅広い年代の耳鼻咽喉科疾患を診断し治療し、命と機能を守ることを目標としている。

入院患者の手術及び周術期管理、放射線化学療法などを経験し、総合的に診断する力や基本的な外科的手技を習得することができる。

B. 到達目標

1) 研修全体において

① 歯科医師としての基本的価値観

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与と社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
2. 利他的な態度患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。
3. 人間性の尊重患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
4. 自らを高める姿勢自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

② 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。
2. 歯科医療の質と安全の管理患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する
3. 医学知識と問題対応能力最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
4. 診療技能と患者ケア臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。
4. コミュニケーション能力患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。
5. チーム医療の実践医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。
6. 社会における歯科医療の実践医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。
7. 科学的探究医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

8. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

2) 麻酔科・集中治療部 (ICU) において

1 基礎的手技の実践と習得

麻酔管理、蘇生に必要な基本的な手技（静脈路確保、動脈路確保、気管挿管、人工呼吸 etc）を、指導医の監督・指導の下、学習・習得する。

2 バイタルサインの評価・解釈・介入

人体の生命活動の基礎となるバイタルサインを正しく把握、評価する方法を養う。状態の評価から、介入の必要性を判断し、行動できるようになることを目標とする。

3 薬剤投与、シリンジポンプなどを用いた精密な薬剤投与を実践し、薬理学への理解を深める。また薬剤投与時に発生しうるヒューマンエラー（インシデント）についても理解を深め、安全な医療の実践ができるよう研修を行う。

4 多業種が協調する手術室において、チーム医療の実践とコミュニケーション能力を習得する。

5 集中治療室に入室した重症患者の全身状態を改善させるためには、その病態を把握し、検査や治療の優先順位と適切な治療方法を決定し、迅速にそれを遂行することが必要である。そのために臨床医に必要な基本的な知識、技能および態度を習得することを目標とする。

3) 救急科において

救急科に収容される多彩な救急患者の病態を適格に把握し、各診療科との連携を保ちながら、検査や治療・処置の優先順位を決定し、患者の状態の安定化させることのできる臨床医に必要な基本的な知識、技能および態度の習得を目的とする。

4) 循環器内科において

循環器内科としての総合的知識の習得とともに、循環器疾患に関する基本的な知識・技能を習得する。患者の社会的背景を理解し、医療人にふさわしい人間性を養う。チーム医療の中で、自分の役割を理解し、協調性を持った行動ができる。

5) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科において

聴覚・嗅覚・味覚・平衡感覚などの感覚器を扱うと同時に、嚥下・音声言語・呼吸器などの機能と、それに必要な頭頸部外科の基本的な手技を習得する。

③ 基本的診療業務

1) 歯科口腔外科

On the job training (ON-JT)

1. 病棟研修・回診

- ・入院受け持ち患者の診療（毎日。必要に応じて、夜間・休日も）
- ・カルテの記載：指導医とのディスカッションを受けて
- ・総回診（週1回）や毎日のグループ回診における受け持ち患者についての提示
- ・検査及び手技：採血（静脈，動脈），末梢ライン確保、手術創部の管理、
- ・手術：口腔外科疾患の手術助手を主に行うが、執刀医になることも可能
- ・退院サマリー：患者の退院に際しては、報告書やサマリーの作成を必ず行う。

2. 外来研修（毎日：午前9時～午後5時）

- ・新患の医療面接
- ・外来処置研修（口腔顎顔面の基本診察法、口唇生検、口腔粘膜病変の生検、顎関節症の診断と治療、顎関節脱臼の整復、抜歯、歯の脱臼に対する救急処置、顎骨骨折や顔面外傷に対する救急処置、舌痛症や口腔異常感症を含む口腔顎顔面痛など）

3. 当直

- ・オンコール医とともに任務に就く。

Off the job training (Off-JT)

1. 症例検討会・カンファレンス・医局勉強会

週にそれぞれ1回。専門グループ別のものも適宜行われる。

2. 抄読会

英語の論文を簡潔にまとめて発表する。

3. 学会及び研究会

興味ある症例の担当となった場合、指導医と相談の上、学術集会や研究会で報告する。

C. 研修指導体制

1) 歯科口腔外科研修

1. 研修歯科医，指導助手，指導歯科医でチームを組み診療にあたる。
2. チームの指導は責任を持って指導歯科医が行う。
3. 指導歯科医は臨床経験7年以上を要件とする。
4. 指導助手は歯科臨床研修修了者とする。

2) 医科研修

各診療科の研修責任者、指導医（臨床経験7年以上）、上級医の指導の下で研修を行う。

D. 修了判定の評価基準

歯科口腔外科研修については、目標達成の基準として、10症例未満の症例については目標症例数に達していることが望ましいが、達していない場合はレポートを作成し、指導歯科医が評価する。10症例以上の場合、その8割以上を達成していることが必要。医科研修については、各診療科の指導医が目標を達成しているかを評価する。修了判定において、①必要症例数、②症

例のまとめ、③研修に取り組む姿勢を評価し、①は必要症例数の達成、②は提示症例の理解度が修了相当であること、③指導歯科医が適切な姿勢で研修に臨んでいると評価することを基準に金沢大学附属病院臨床研修病院群研修管理委員会 歯科臨床研修専門部会で審査して修了判定を行う。

E. 研修スケジュール

歯科口腔外科研修（1年目）

1. 年間スケジュール

- ① 外来診療研修：歯科口腔外科外来の患者の診察・治療を行う。（通年を通して行う）
- ② 病棟診療研修：歯科口腔外科の入院患者の診察・治療・入院管理を行う。
（通年を通して行う）
- ③ 協力型（Ⅱ）臨床研修施設での研修：総合病院歯科口腔外科の患者の診察・治療を行う。
- ④ 診療カンファレンスへの参加（通年を通して行う）
- ⑤ 各種セミナーへの参加（通年を通して行う）

2. 週間スケジュール（表）

	AM					PM							
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
月	勉強会	← 外 来 →				← 外来小手術 →			← 専門外来 →				
火	症例 検討会	← 外 来 →				← 手 術 →			← 外来小手術 →		← 専門外来 →		
水		← 外 来 →				← 外来小手術 →			← 専門外来 →				
木		← 外 来 →				← 手 術 →			← 外来小手術 →		← 専門外来 →		合同 カンファレンス (抄読会)
金	教授 回診	← 外 来 →				← 外来小手術 →			← 専門外来 →				

医科複合研修（2年目）

① 医科研修

麻酔科・集中治療部（ICU）（4か月間）

救急科（1か月間）

循環器内科（1か月間）

耳鼻咽喉科・頭頸部外科（1か月間）

② 歯科口腔外科研修（5か月間）

協力型（Ⅱ）臨床研修施設での研修以外を1年目の研修に準じて行う。

全身麻酔手術、病棟管理、外来小手術、専門外来を主に研修し、1年目よりも高度な症例を担当する。

VII. 研修医の募集方法

1. 研修歯科医は、一括して募集する。
2. 募集要項，募集日程は別に示す。
 - ・選考方法：面接
 - ・募集時期：2024年6月
 - ・選考時期：2024年9月
 - ・研修開始時期：2025年4月
3. マッチングシステムに参加する。
4. 応募者は在学中の学業成績等にて採用順位を決定する。

VIII. 研修評価

本歯科臨床研修プログラムにおける研修歯科医の評価は別に示す。

IX. 処遇

金沢大学附属病院の現況の予定は以下のとおりである。

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 常勤・非常勤の別 | 非常勤歯科医師 |
| 2. 研修手当 | 基本手当（時給換算）2,167円／時間 |
| 3. 勤務時間 | 8:30～17:00 |
| 4. 休暇 | 土曜日及び日曜日，国民の祝日に関する法律に規定する休日，有給休暇，夏季休暇，年末年始 |
| 5. 時間外勤務 | 無し |
| 6. 当直 | 無し |
| 7. 宿舎 | 有り（職員宿舎に空きがあれば可能）
単身用116戸／世帯用115戸 |
| 8. 研修歯科医のための
施設内の部屋 | 有り |
| 9. 社会保険等 | 健康保険，厚生年金，労災保険，雇用保険適用 |
| 10. 健康管理 | 定期健康診断 年1回，B型肝炎及び4種感染症抗体検査，インフルエンザ予防ワクチン接種 |
| 11. 歯科医師賠償責任保険 | 病院として加入，個人加入任意 |
| 12. 外部研修活動 | 学会，研究会 参加：可 参加費用：支給なし |